

特集「Java 適用技術」の発刊によせて

丸 山 修

PCの普及に始まるMIPSの分散、インターネット/Web技術の定着など、現在のコンピューティング環境はそのアーキテクチャや技術の多様性においてかつてのメインフレーム中心の時代に比べ格段に複雑になってきている。それは情報産業ビジネスモデルの垂直統合型から水平分散型への変遷と機を一にしており、一方で特定のミドルウェアやソリューションの提供を専らとする多くのISVを生み出した。このような多様なアーキテクチャ、技術、ソフトウェア製品の中から機能、効率、品質要求とある程度の永続性を満たす最適な選択をなし、複雑さを隠蔽して単純な要素に還元する解決を見出すことが、現在、システム構築上の大きな課題の一つである。

このような中であってその有力な解決策の一つとしてコンポーネント技術が注目されている。

Javaはインターネットプログラミングを容易にするだけでなく、インタフェース概念を重視したオブジェクト指向言語という特性が、Java言語環境のプラットフォーム独立性と相俟ってインターネット環境の複雑さからアプリケーションプログラムを解放する。またJavaBeansはクライアントプログラムの、EnterpriseJavaBeansはビジネスロジック(サーバプログラム)のコンポーネント開発を可能にし、システムの複雑さからアプリケーションプログラムを解放する手段として期待される。そのような開発を支援する開発環境ソフトウェアの提供も急速に進んでいる。

CORBAに代表される分散オブジェクト技術は、複雑なネットワーク環境に配置されたオブジェクト(プログラムモジュール)の物理的位置の透過性を実現し、ネットワークの物理的複雑さからアプリケーションプログラムを解放する。

一方、ソフトウェアの生産活動には常に生産性と品質の問題がつきまとい、そのためソフトウェア工学という立場から各種の開発技法やプロジェクトマネジメントの技法が進歩してきているがまだまだ課題は多い。JavaやCORBAのようなインタフェースをクローズアップさせたコンポーネント技術の出現は、インタフェースの制御・管理という視点での新しい開発方法・管理技法を可能にすると期待される。

日本ユニシスは、システムインテグレータとして顧客の課題解決になる多くの業務システムの開発を手がけてきている。日頃から顧客の要求に応じたシステム開発に貢献すべく、システム開発にまつわる先端技術の習得と適用を心がけている。経済環境の急激な変化の中、顧客業務を支援する情報システムを迅速に品質よく開発することの重要性はますます高まってきており、特にその為の有力な手段として、インターネット/Web環境をベースとするJavaや

CORBA , XML , UML といった新しい道具とオブジェクト指向/コンポーネント開発技術に注目し方法論の整備確立と共に一層の適用と普及に努力している .

1997 年より Java の専門部隊を組織し (現在は , インターネット・ジャバ・センタ・オブ・エクセレンス) 実践を通してその適用技術を追求してきた . 本特集に納められた論文は , これらの新しい技術を実システムに適用させるという先行的取り組みの中から得られた成果の一部を報告している . 今回は Java という新しい技術を実践的に業務システムに適用した技術面の報告を主にまとめているが , これらの新しい技術によるシステム開発のプロジェクト管理や開発工程の課題については別途報告する機会を持ちたい . 併せて Authorized Java Center としての活動を通して日頃から協力・支援をいただいているサン・マイクロシステムズ社からも最新技術に関する報告をいただいている .

本特集は単なる Java 技術の評論ではなく実践に裏付けられた知見の報告となっている . Java と関連技術を採用してシステム開発を目指す皆様の一助になれば幸いである .

(生産技術部長)